

大雪山の火山活動解説資料（令和元年8月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～8）

26日から28日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で、これまでと同様に、噴気温度が100℃以上の状態が継続していました。噴気孔及びその周辺の状況に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

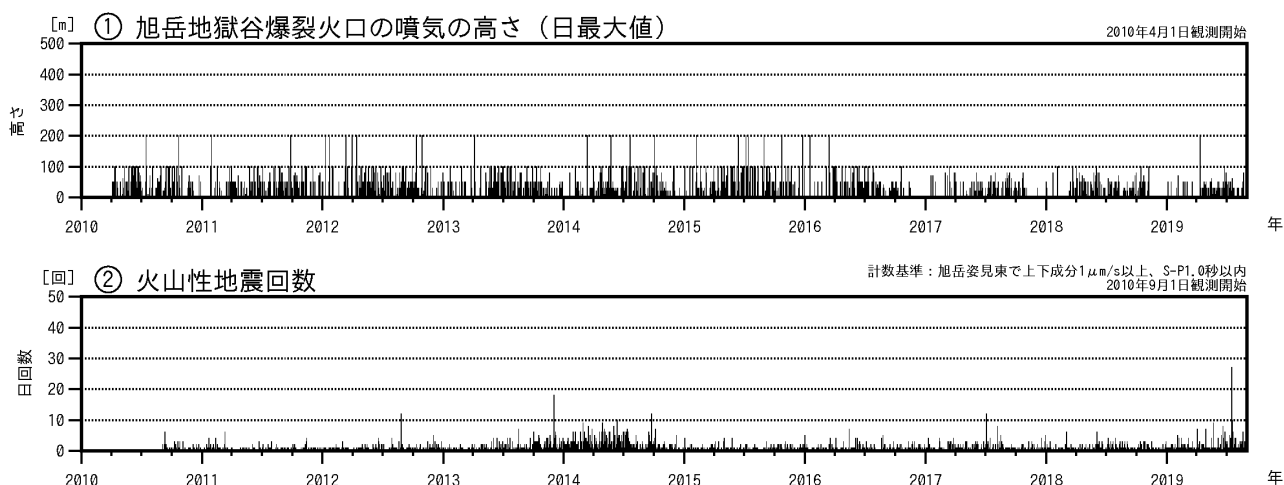


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2019年8月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）

次回の火山活動解説資料（令和元年9月分）は令和元年10月8日に発表する予定です。

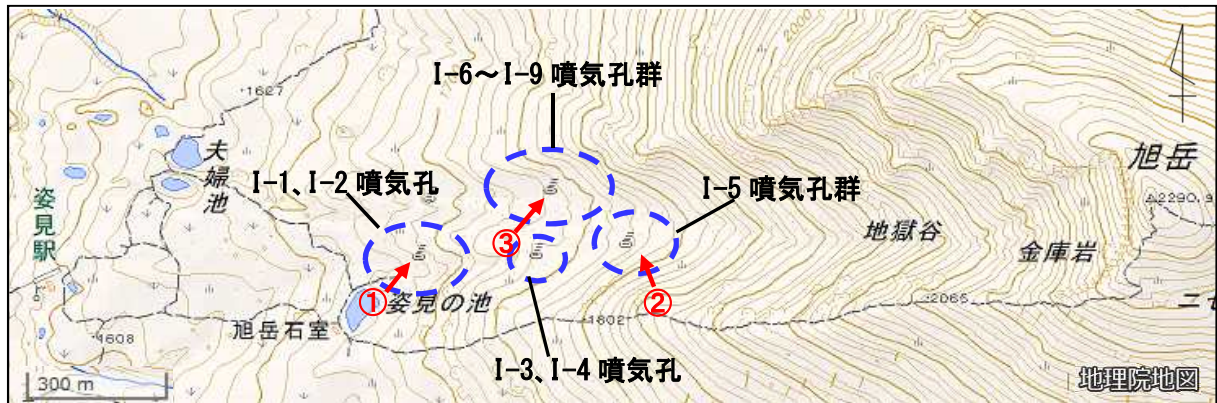


図2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向（矢印）

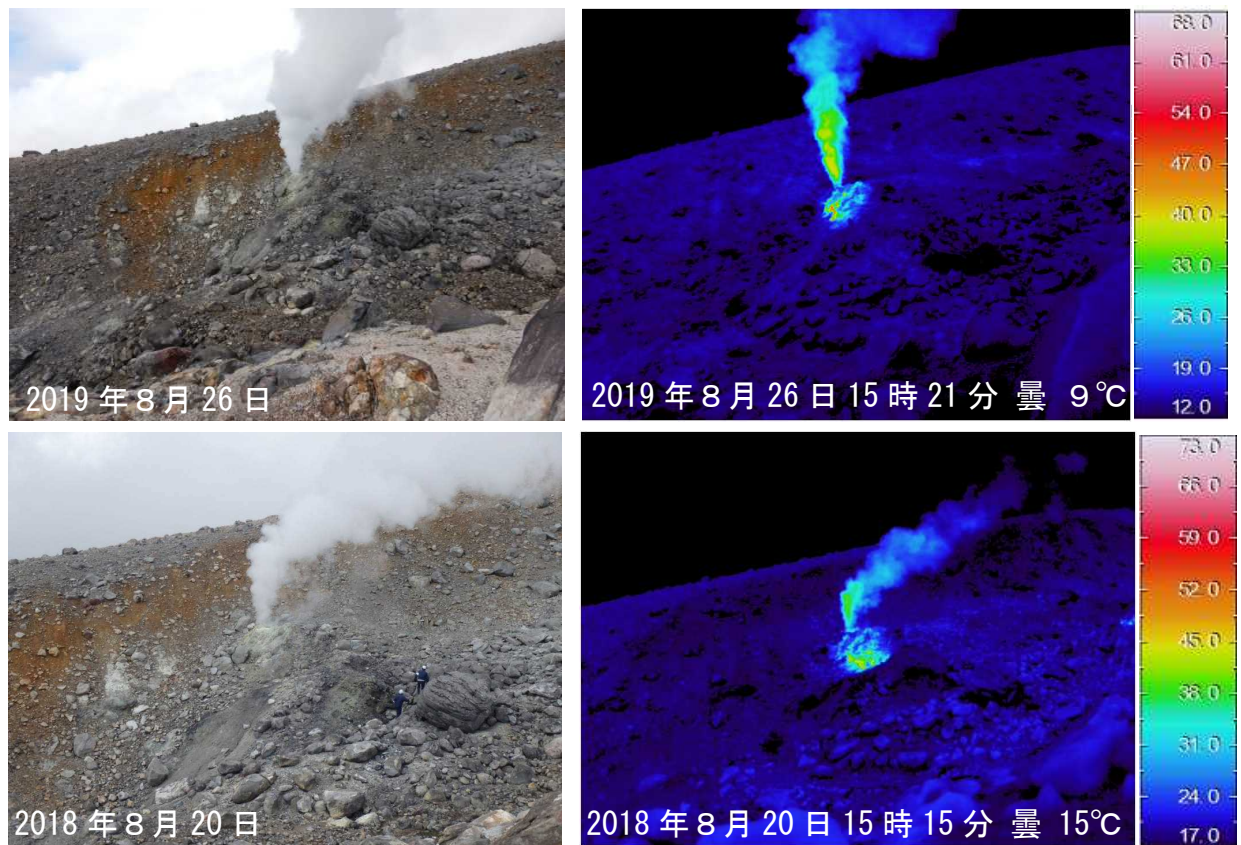


図3 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口内のI-1噴気孔の地表面温度分布
南西側（図2の①）から撮影

・噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

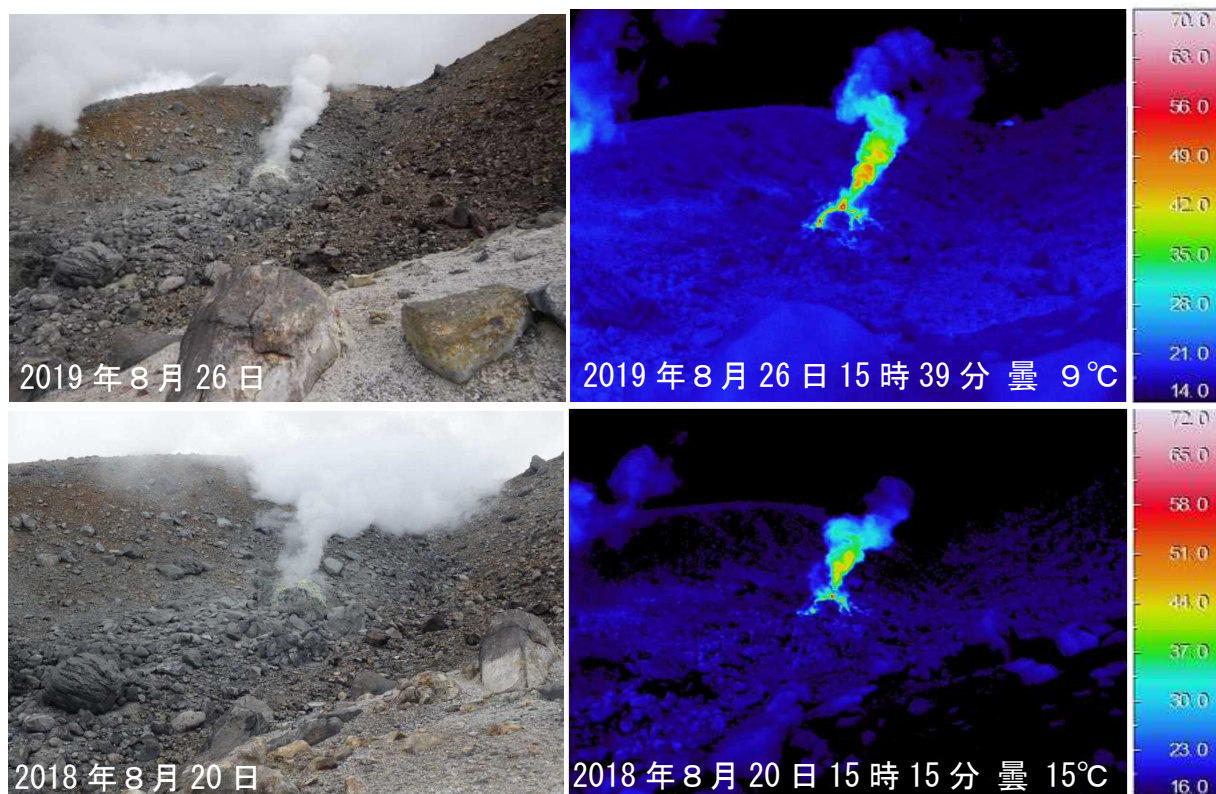


図4 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口内のI-2噴気孔の地表面温度分布
南西側（図2の①）から撮影
・噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

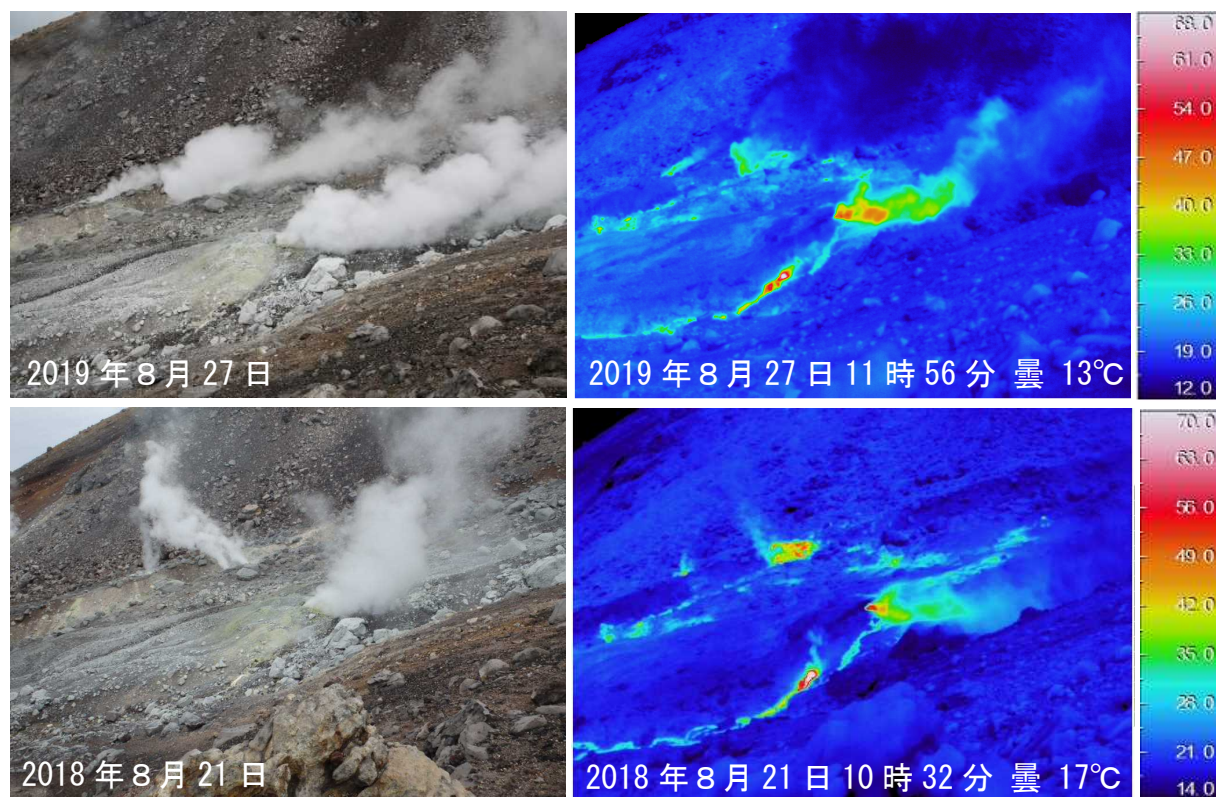


図5 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口内のI-5噴気孔群の地表面温度分布
南側（図2の②）から撮影
・噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。
・噴気の影響で一部見え方に違いがありますが、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

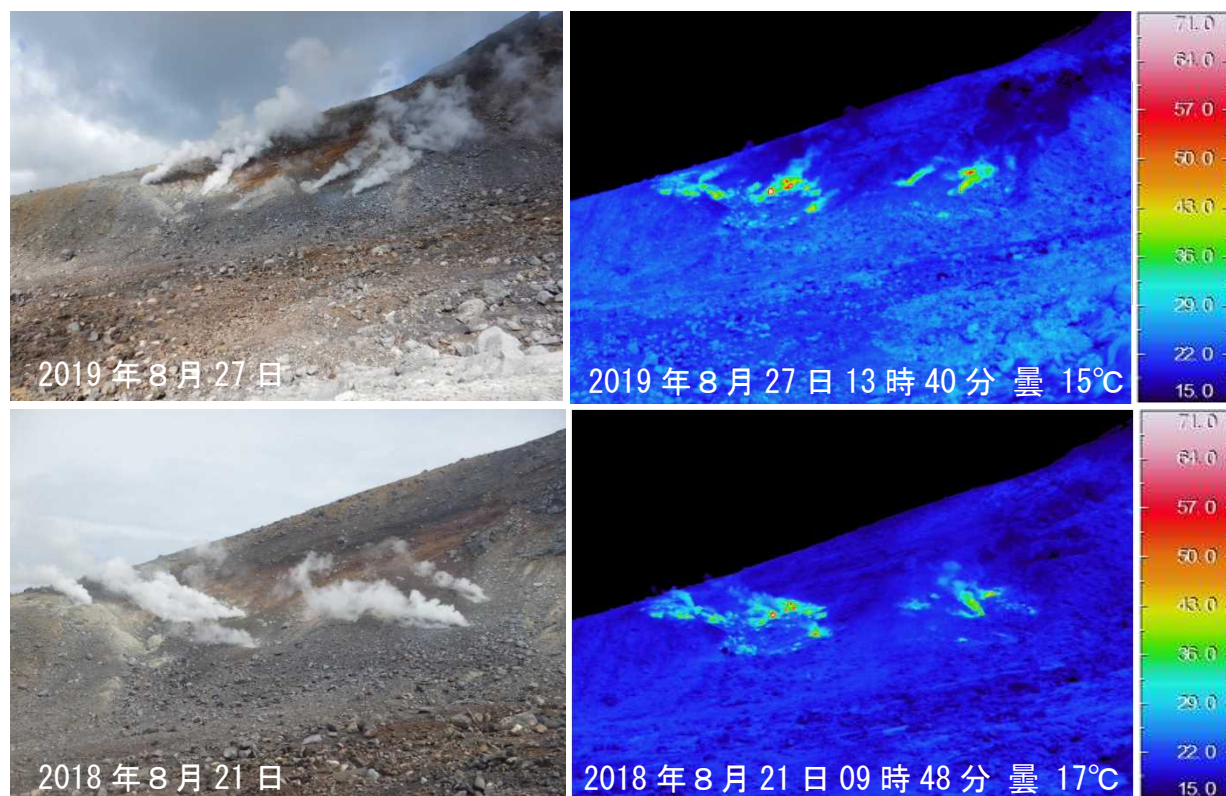


図6 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口内のI-6～I-9噴気孔群の地表面温度分布
 南西側（図2の③）から撮影
 ・噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

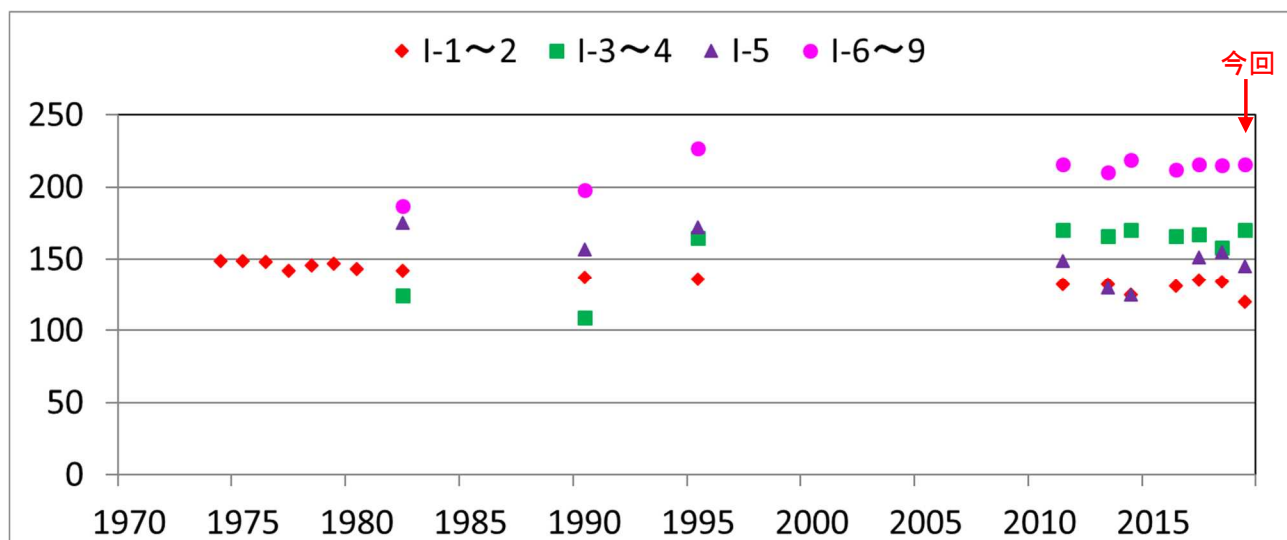


図7 大雪山 各噴気孔における噴気温度の推移
 熱電対温度計を用いて、各噴気孔における噴気温度を計測した。各噴気孔の位置は、図2を参照のこと。
 ・各噴気孔では、これまでと同様に、噴気温度が100°C以上の状態が継続していました。



図8 大雪山 西側から見た旭岳の状況（8月28日、忠別湖東監視カメラによる）

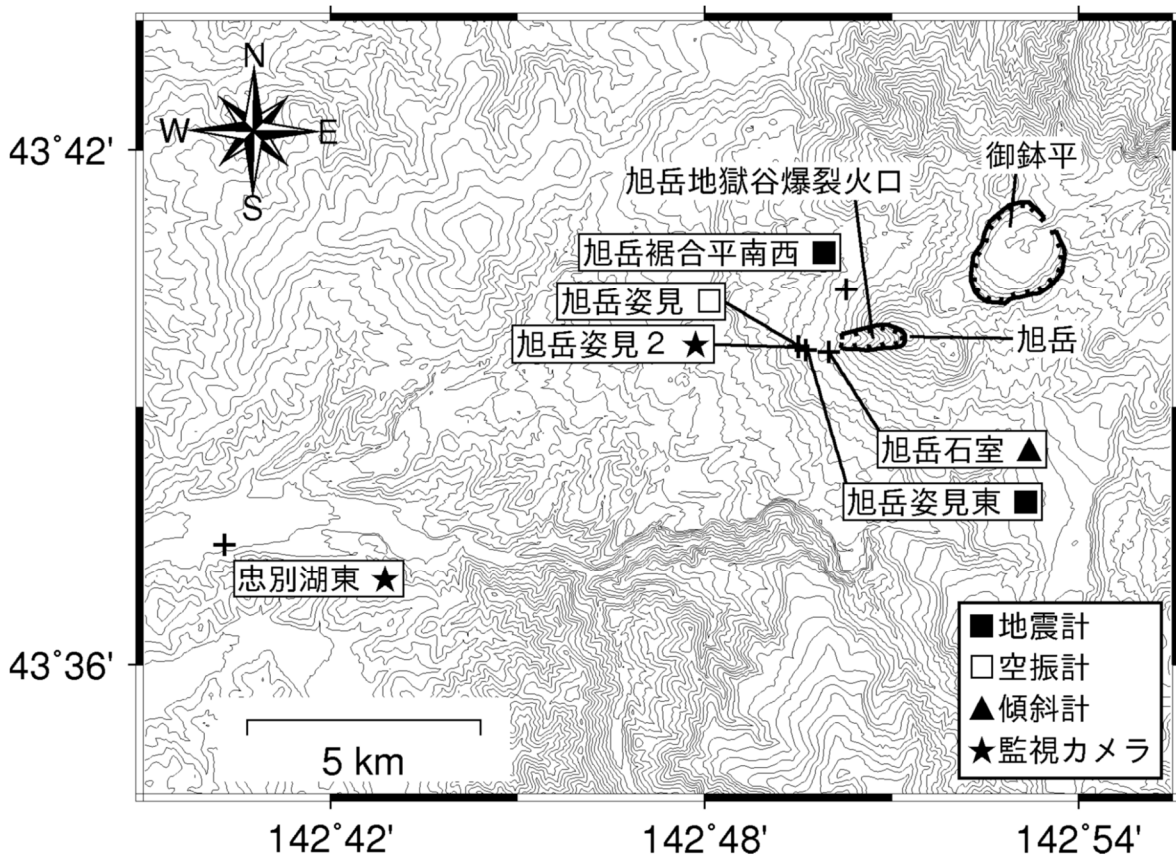


図9 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します。